

私立大学研究ブランディング事業
「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」
平成 30 年度研究中間報告

課題 5 レクリエーション利用による里山管理

担当者：森野 真理

■平成 30 年度の達成目標

本研究では、里山のレクリエーション利用がもたらす文化サービスの内容、および利用に伴う管理の実態を明らかにする。平成 30 年度の達成目標は、以下のとおりである。

- ・ 自然体験活動への参与観察により、参加者の活動や遊びを通じて利用される生物素材をリストアップする。
- ・ 年間の管理を通じて発生する木質資源量を計測する。

■平成 30 年度の進捗状況（9 月末時点）

研究対象地は、南あわじ市伊加利地区の個人有林である。現在の植生は、ウバメガシ、クヌギ、ヤブツバキ、クリ、タケ、などが混在する二次林であり、活動広場周縁には、果樹（スモモ、ブルーベリーなど）、アジサイ、などが植栽されている。敷地内には、かつて農業用に使用されていたため池や水路がある。対象地では、市内 NPO と地域住民をスタッフとして、毎月、幼児～小中学生向けの自然体験活動のイベントが行われている。

9 月末時点の進捗状況は、以下のとおりである。

- ・ 2018 年 6 月 26 日：NPO 代表者への事前ヒアリングと調査協力の依頼。
- ・ 同年 7 月 8 日、9 月 9 日：豪雨により、予定活動中止。
- ・ 同年 8 月 5 日：活動への参与観察

<参加者が活動や遊びで利用した生物素材>

	参加者・スタッフ*	利用された生物素材	発生した木質資源
8 月 5 日	・乳児～小 5：8～9 人 ・保護者：6～7 人 ・スタッフ：6 人	タケ…流しそうめん用 タケの落葉…手触り タケの遊具（タカポン、ブランコ）	タケ間伐材：1 本

*：スタッフには、参与観察する学生および教員を含めない。